

飼料作物の栽培について

香川県善通寺市生野町
四国農業試験場飼料作物研究室

西 村 修

一

五 飼料作物の利用について

前号にも述べましたとおり、青草を家畜に食べさせるには、放牧すなわち放し飼いが一番良いのですが、この方法では、家畜の食べることための無駄がかなりできますから、わが国ではこの方法はあまり行われず、作つた青草を刈りとつて与えるのが、普通の飼いかたです。

青刈り作物が生長するにつれて、その成分が変つてきますが、大体若いときは、こなれの悪いスジ即ち纖維が少くて、蛋白質などの飼料として大切な成分が、たくさん含まれていますが、若い時期に刈つたのでは、収量は上りません。また刈りどきが遅れますと、収量は多くなりますが、同時に蛋白質は少くスジが多く、こなれが悪くなつてきます。細葉の程度即ち稻科の作物は特に、この変化がはげしいものです。青刈り作物を刈りとるには、反当たりの飼料となる成分が最も多くなる時期を選んで刈るのが、一番よろしいのですが、これは稻科のものでは、穂の出そつたころ、また茎

暖い地方では、冬でも青刈り作物が伸びますから、作付をうまく計画的に考えれば、年中青草をたえず与えることができます。

しかし、季節によつて、青草のたくさんで生きる時期と、足りない時期とが当然でありますし、一つの青刈り作物を、若いときから毎日刈つてゆきますと、収量と成分とから考えて、さきほど申しました一番良い時期に利用することが出来ませんし、また、一部を刈りはじめてから、全部を刈りおわつてあと作物の作付けをするまでの間に、どうしても畠の一部を遊ばせることになりますから、反当たり収量について、かなりの損失をすることになります。

そのうえ、同じ作物でも、その成分が次第に変りますので、家畜の栄養を、青刈りだけで年中十分に保つてゆくことは大変難しいことです。

そこで、どうしても、収量の十分上つたところで、なるべく一せいに刈りとり、余った分は貯えておいて、不足するときにこそ用いるように考えるのがよろしい。

刈りとつた青刈り飼料を貯える方法とし

ては、乾草とサイレージとの二つの方法があります。乾草を作る途中で雨にあると、その養分が洗い流され、ひどく少くなつてしましますから、雨にあわせないことが大切です。雨の多いわが国では、ほし草をなかなか難しいので、コンクリートのサイロへ雨にあわせないで作りあげることが、なかなか難しいので、サイレージを作るほうが、気の心配もいらず、養分の損失も少く、貯える場所もとらず、火事の心配もいりませんから、ひろくこの方法が奨励されています。

暖い地方では、一度刈りとつたあとから、二度刈りのできる作物をえらぶと、大変便利です。さきに申しましたように、田畠を遊ばせることのないようにするには、二度刈り、三度刈りのできる作物をえらぶと、大変便利です。

暖い地方で家畜を飼うときの第一の強みですから、サイロを作つて、飼料の不足になえると同時に、一方、青草を年中たやすくうに工夫することも暖い地方の家畜の飼いかたとして大切なことです。このようにたえず青草をとつて、しかも二度刈りのできる作物をえらぶと、大変便利です。

表紙写真の説明 陽光を浴びて……雪印種苗上野観音種場にて

牧草と園芸 四月号 目次

- ◇飼料作物の栽培について (2) 西村修一・三
- ◇農業経営と牧草 渡部以智四郎・六
- ◇西南暖地における飼料作物見聞記 (2) 中野富雄・八
- ◇寒冷地に於ける飼料作物は 内山幹夫・二
- ◇芽芽の分化発育を中心とした 牧草栽培かテントコーンか 八鍬利郎・一
- ◇バラ作りあれこれ (2) 八鍬利郎・一
- ◇草サイレージの新らしい添加剤 果菜類の育苗 (2) 原秀雄・六
- ◇バラ作りあれこれ (2) 八鍬利郎・一
- ◇スターゲリーン

- 番芽が伸びて、あとでまた、これを二番刈りすることができます。作物の種類を切だということを申しました。しかし暖い地方では、冬でも伸びる青刈り作物がいろいろありますから、これを上手に使えば、
- このようないかたのできる作物の種類をあげてみますと、冬作物では燕麦、イタリアンライグラス等稻科の種類、また薺科のものでは花ざかりの時期ということに

年中青草を少しすつでもたえず与えることはできます。家畜が丈夫に育つて、乳を出すためには、年中いつでも青草をたえず与えることは大変良いことです。寒い地方ではこれができません。これができるのは

そこまで、なるべく一せいに刈りとり、余った分は貯えておいて、不足するときにこそ用いるように考えるのがよろしい。

刈りとつた青刈り飼料を貯える方法とし

ゴー（ロゾク）は二回刈れますし、同じな
かまのスチーダングラスは、さらに二番芽が
出やすくて、夏中に三〜四回も刈れます。

薦科ではカウピー（ササゲ）は一番芽かで
やすく、大豆はあまりできません。

これらの作物を作つて、一度丸り三度丸りして、その収量を合計してみますと、たいていの作物では刈りとりの回数を増すほどその合計は少くなります。結局、このよう

な二番芽のでやすい作物でも、途中刈らなければ一番良い刈りどきに一せいに刈りとる。ほうが収量が多くなるのが普通なのです。

家畜を飼う上には、一ペんにどつきり、同じ飼料がとれるよりも、何回にも分けて次々に青草がとれるほうが、殊に冬の間でもそれほうが便利ですから、幾分収量は少くとも、二度刈り三度刈りにするほうがうれしいでしよう。ただ、あまりに刈りとりの回数を多くして、五回も六回も刈りますと、手間がかかるうえに、収量がすつと少くなりますが、せいぜい燕麦やソルゴーなど二番芽の出やすいイタリアンライグラグラスでも三〜四回までにすこやうがよろしい。

特に冬作物として燕麦を作りますと、タ
でも伸びますから、冬青草をたえず少
づつでも与えることができて便利です。こ
の燕麦を例にとつて、その刈りかたにつ
いて、少しくわしくお話しすることにします
この燕麦の一番刈りをしたあとの刈りか
つから、二番芽の出てくる様子を調べてみ

ますと、二番芽のうちには、切られた茎がそのまま伸びてくるものと、その根から新

しい芽を伸ばしてくるものと二つの種類があります。そして二番刈りの青草は、この両方からでてきてくるわけですが、根源から新しく出る茎はごく細い小さなのですから、切られた茎の切間から伸びる茎葉が名前少いかによつて、二番刈りの多くとなるか、少いかがきまつてしまひます。

麦類が茎葉を伸すようすをよく見ますと、茎の芯のところから、次々に葉を外に伸ばして生長しています。この葉を作り出すもとであります茎の芯、これを生長点と言いますが、冬の間には、この生長点が地面に近くあるところにあります。春になりますと、茎が立上つてきて、葉をつくり出す芯のあるところが、次第に高く伸びてきます。

普通、このような時期に一番刈りをするわけですが、この芯すなわち生長点を刈らなければ、茎はもう伸び出しができないのはあたりまえです。それで、この一番刈りのとき、刈り株を高く刈りのこすことが、二番芽をよく出させ、一番刈りを多くするため大切なことです。

前にもお話ししましたように、燕麦は冬でもよく伸びる作物ですが、それだけに冬の寒さには弱いものです。これを途中でとりとりして、このとき霜が降りると、すかり枯れてしまうことがあります。それで、燕麦の一一番刈りのときには、よく土をつけて、第一に冬の寒さの厳しい時期は、刈りとりを見合わせるほうが安全です。

第二になるべく高く刈ることが、二番立を多くするばかりでなく寒さの害をさけるためにも大切です。また第三には、刈りとりのあとで、たいていの人は、早くのびるようには肥料をかけてやるようですが、このように追いごえ特に窒素肥料分を追いごえにしますと、特に寒さに弱くなりますから、このような肥料は、秋のうちに十分施しておほか、あるいは刈つてから一ヶ月近くたつてから施すほうが安全です。三月からあとなれば、もう、寒さのために枯れてしまうことはありませんから、このような心配はありません。

今申しましたように刈り株を高くのこして刈ることは燕麦に限らずイタリアンライグラスなど、稻科の草を一番刈りするときにも、同じように応用でき、株を高く残すほうが、生長点が残るから二番芽ができるわけです。ところが、夏作物のソルゴーやスークラングラスなどは、穂の出はじめることに一番刈りするのが普通ですから、高刈りしても、生長点は残らず、従つて高刈りにしても一番刈りの収量が増えることもありません。このように、生長点が残らないのなら、いつそのこと低刈りにしてしまうのが得になります。燕麦でも四月に入りますと、もう高刈りしても無駄です。

七 飼料作物の混播について

七 飼料作物の混播について

の作り方は、大へん利益が多いので、この混ぜ播きについてお話をしましょ。

飼料作物の種類には、稲科のなかまと、
蕓科のなかまとが多く、それぞれ特長がな
つて、大体稲科は収量が多いが質すなわち
成分が劣り、蕓科は成分はすぐれているが
収量が少いことを前にお話ししました。こ
こでこの両方を混ぜて作れば質の良い飼料
をたくさんとれるわけです。また、サイマ
へ入れることで、うまくナイロンができ

へ入れたときには、一瞬、さわやかな香りがするためには、乳酸菌というバイキンのはちみつは、らきが、たいせつですが、この乳酸菌は、詰めた青草の中の砂糖分を餌としてふえて

ものなのです。ところが、莧科の作物のには、蛋白質は多いのですが砂糖分が少ないので、莧科の青草だけでサイレージをつくることはむずかしいのです。一方、稻穀の草には砂糖分が多いので、サイレージのできはよろしいが、蛋白質は少いので、飼料としての価値は劣っています。そこで、この両方が混つたものをつめれば、飼料として成分のつりあいのとれた、質のよいイレージが、うまくできるというわけです。混ぜ播きにしますと、それぞれの作物別々に作った場合よりも収量が多くなるのが普通です。稻穀の作物と莧科の作物とは草の形がちがいますから、これを混ぜ作りますと、うまく組合わさって、すきなく地面に茎葉がひろがります。莧科の茎葉はたいてい茎が細くて、中にはつる性のものがありますから、このようなものの単作にしますと、倒れて葉が腐り、收穫が少くなりますが、茎のしつかりした莧

